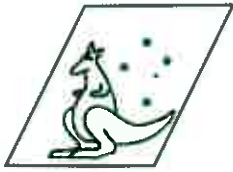


2017/Jan.



はろーまて

HELLO MATE

JAPAN-AUSTRALIA SOCIETY OF OSAKA

発行：大阪日豪協会

発行責任者：富田 勇一
〒541-0048
大阪市中央区瓦町3-3-10
ニッケビル11F
TEL・FAX：06-6205-6618
nichigo@herb.ocn.ne.jp
<http://osakanichigo.com/>

2017年の新春を迎えて

会長 富田勇一

大阪日豪協会（JASO）会員の皆様、明けましておめでとうございます。よいお正月を過ごされたことと拝察しお慶び申し上げます。

旧年中は会の運営について沢山のご協力を頂き有難うございました。とりわけ先の全国日豪協会大阪大会は、日本全国各地と豪州からも大勢のお客様を迎え、予想を超える大盛会となりました。そして多くのお客様から「素晴らしい」というお褒めの言葉を頂戴いたしました。少し手前味噌になるかも知れませんが、殆どのお客様に大いに喜んで頂けたと感じました。これは、開催決定からの2年間、JASO役員・会員の皆様が、この日のために一方ならぬ力を注いで来たことの賜物であると思います。一つの大きなことを成し遂げたことで、JASO自体が一回り成長したのではないかと誇りに思います。

このような実績を踏まえてわれわれの今後を考えますと、伝統である「明るく、楽しく、面白く、フレンドリーな日豪協会」というモットーを基本にしながら、もう一つ、日本がオーストラリアから学ぶべきところを少しでも伝えて行くことが出来たらと思っています。

具体的には色々ありましようが、まず個人の生産性の高さに着目したいと考えます。日本26位、豪州10位、これは2015年度の一人当たりGDP世界ランキングです。日本の約1.6倍です。地下資源が豊富だとかいうことは理由になりません。資源があってもGDPが低位の国のほうが多いからです。これは何と言っても国民一人ひとりの能力を最大限に発揮させる社会の仕組みだと思えます。教育が一番大事でしょうが必ずしも教育だけでもなさそうです。日本の人口が1億2千万人から8千万人にまで減少しても、一人当たりが豪州並みになれば、今と同じ規模の経済を維持できます。そんなことも考えながら皆さんと話し合っていきたいと考えております。



10th ニッケピュアハート
Nikke Pure Heart
イラスト大賞



ニッケピュアハートイラスト大賞の受賞作品は下記HPよりご確認ください。
<http://www.nikke.co.jp/csr/culture/pureheart/illustration/before/>

<http://www.nikke.co.jp>

新総領事のご紹介



大阪日豪協会の皆様、明けましておめでとうございます。そして、初めまして。新しく駐大阪オーストラリア総領事に着任したデイビッド・ローソンです。日本は私と私の家族にとって大変縁のある国です。1982年、妻と私は共に日本へ留学していましたが、出会ったのは1983年にオーストラリア国立大学で日本語を学んでいた時でした。卒業後、私はキャンベラの豪日研究センターのピーター・ドライズデル教授の研究助手として働きましたが、その後、自分のビジネスを始めました。静岡に拠点を置き、日本各地にオーストラリアの家を輸入・建設しました。長女は静岡で生まれ、1993年には日本から帰国してすぐ、キャンベラで双子を授かりましたので、子どもたちは三人全員「Made in Japan」です。

これまで日本各地で暮らしてきましたが、関西に住むのは初めてなので、妻も私も大阪をはじめ、この地域への理解を深めていけることを楽しみにしています。特に四国四県は私にとって日本で唯一まだ訪れたことのないところです。

私は以前サンフランシスコでオーストラリア総領事の職を務め、また、モンゴルのウランバートルでは最初のオーストラリア総領事でした。その前には仙台のオーストラリア領事を務めたほか、札幌では短期任務で領事を務めました。

オーストラリアでは、前任のテイラー総領事のように、その役割を立派にやり遂げた人の後の新人は、優秀だった前任者の後任として重責を担うという意味で、「大きい靴を履くことになる」という言い方をします。実際の私の足は「馬鹿の大足」といえるほど大きくはありますが、テイラー総領事から引き継いだこの重要な「大きな靴（大役）」を履きこなし、皆様と共に日豪関係強化に貢献していけるよう全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

大阪日豪協会の皆様とお会いし、日豪両国の親善と発展に共に取り組んでいける機会を楽しみにしております。

駐大阪オーストラリア総領事
デイビッド・ローソン

全国日豪協会連合会 大阪大会特集

全国日豪協会連合会・大阪大会は豪日基金40周年記念も兼ねて、全国日豪協会連合会・大阪日豪協会主催、関西日豪協会・神戸日豪協会・南大阪日本オーストラリア協会の3協会共催のもと、下記スケジュールで開催されました。

- 2016年11月26日(土) 場所：帝国ホテル・大阪
 14:15~16:15 全国日豪連合会総会
 16:45~18:30 記念シンポジウム
 「日豪交流の将来と日豪協会の役割」ー親善と理解を深める為にー
 19:00~21:30 懇親パーティ
- 2016年11月27日(日) オプションツアー
 一日コース : 仁徳天皇陵と利休井戸他、堺市内見物
 半日コース : 大阪ダックツアー

オーストラリア女流画家 ジョアン・フック日本総代理店

ランデヴーギャラリー・カフェ・教室

営業時間：11時~18時(月曜予約制)

株式会社 アークコーポレーション

〒602-8158 京都市上京区下立売通智慧光院西入一筋目下ル
 代表取締役 山中満子 Tel 075-821-7200
 Email: infoark@kk-ark.jp http://www.kk-ark.jp

Spring Art Bank http://www.springartbank.com

オーストラリア他、世界の羊毛原料輸入商社

株式会社 アトムズ

顧問 岡本安裕

〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町2-13
 Tel 06-6943-7727 Fax 06-6944-0323

☆11月26日(土) :

「大阪へ集まろう! オーストラリア大好き!!」のキャッチフレーズのもと、幅広くPR活動・お声掛けをしてきた結果、大阪大会の総会・シンポジウム・パーティの参加者数は近年最多となりました。ミラー駐日オーストラリア大使、テイラー駐大阪オーストラリア総領事にもご出席頂き、参加者もオーストラリア豪日協会をはじめ、日本各地域の16の日豪協会、北は北海道日豪協会から南は熊本日豪協会と幅広い地域からのご参加を頂き、記念すべき大阪大会となりました。勿論、大阪日豪協会からも多数の会員、非会員の方々の参加も頂き、すべてのプログラムが盛況に推移しました。今大会の参加延べ人数は164名となり、

来賓(オーストラリア大使、総領事を含む)	11名
オーストラリア豪日協会	10名
全国日豪協会(大阪日豪協会以外)	46名
大阪日豪協会	97名 となりました。

☆11月27日(日)

南大阪日本オーストラリア協会主催の仁徳天皇陵と利休井戸他・堺市内見物ツアーと大阪日豪協会主催の大阪ダックツアーには、合わせて40名の参加者が有りました。オーストラリアや北海道、東京、岐阜、飛騨高山、名古屋、岡崎、三重の各地区からの参加者と大阪日豪協会からの参加者が、それぞれ交流を深めながら楽しいツアーを体験されました。

全国日豪協会連合会 大阪大会
特集1 - 総会 -

2016年11月26日(土)、帝国ホテル大阪 3階「鶴の間」におきまして、全国日豪協会連合会の総会が開催されました。

出席者は国内の連合会加盟14協会及び非加盟2協会の計16協会、オーストラリアからは豪日協会連合ベン・スパロー副会長はじめ多数の関係者、さらに来賓を含めて合計110名以上の盛会となりました。

最初に主催協会である大阪日豪協会の富田会長による歓迎の挨拶に始まり、内藤連合会会長代理である足立副会長の挨拶に続き、来賓としてキャサリン・テイラー駐大阪オーストラリア総領事に祝辞をいただきました。

その後議事に入り、大阪日豪協会の富田会長が議長に選出され、2014-15年度事業報告と決算、2016-17年度事業計画と予算の他、規約改定、熊本地震見舞金、ホームページ作成費用、次期開催地、役員改選などの議案が上程されました。

議案は午前中の理事会で慎重審議がなされており、総会では満場一致で可決されました。特筆事項としては、2018年に開催される次期全国大会の主催協会が東京を本拠地とする「公益社団法人日・豪・ニューージーランド協会」に決定し、当該協会の上田会長から受諾表明がありました。又、長年会長を務められた名古屋日豪協会の内藤会長が退任し、新会長として、大阪日豪協会の富田会長が選任されました。これに伴い連合会の事務局も大阪が担当いたします。そして、2年間の任期で次の総会を主催する協会に会長を引き継いでゆく仕組みを始めることも内定しました。連合会の運営に多くの協会が交代で参画することにより、さらなる活動の充実、発展を目指します。

議事終了後、大阪日豪協会の出野評議員の司会により、国内参加16協会からの活動報告が行われました。各協会からの報告内容にはそれぞれ特色があり、協会が誕生した歴史、地域における活動の苦労話や抱える課題など、全国各地の協会の状況が大変よく理解でき、出席者にとってはまさにこういった機会であれば聞くことのできない貴重な時間となり、本大会の開催意義の1つを強く感じた瞬間となりました。(事務局長 森道和記)



全国日豪協会連合会 大阪大会
特集2 - シンポジウム 日豪交流の将来と日豪協会の役割 -

①ブルース・ミラー 駐日オーストラリア大使講演


大阪大会の目玉である「記念シンポジウム」は、134名の聴衆の中、駐日大使ブルース・ミラー氏は、「今日の良い日豪関係の基礎にある人的交流を、今後さらに活気づけるための新しいアイデア」とのスピーチで始まった。聴衆の目は鋭く大使に向けられ「今年は日豪友好協力基本条約が結ばれてから40周年と言う記念の年であり、オーストラリアが他国と締結した二国間友好条約」と聞き、驚きの声が聞こえた。更には、「条約締結の年に日豪交流基金が設立され、人と人の発展の基礎となっている。」と聞き、友好関係の深化を感じた。経済面では、「2015年1月に日豪経済連携協定が発効したので両国に取ってのビジネスチャンスは増大している。」「日本はオーストラリアへの累計投資額が、米国に次いで、世界第2位」になっていますと聞き、納得した。従って、政治面でも日豪関係は緊密であります。大使は、過去をベースに、将来に向けたFocus Country Program、略してFCP、が、2018年に日本で大規模なプロモーション・プログラムを展開すると、ターンブル首相の2015年の発表を引用され、説明された。2020年のオリンピック前に、オーストラリアに取り重要なパートナー国に日本を選定して、オーストラリアの姿をより深く知るプロモーション活動を展開する内容で、愛称は「オーストラリアNOW!」らしい。我々は、オーストラリアに対して、雄大な自然、息を呑むような風景、美しい海岸線、コアラ、カンガルーなどの好印象を持っていますが、それ以外にもオーストラリアの魅力は満点です。その証拠に、高レベルを誇る高等教育機関が数多くあり、世界中から留学生を惹きつけています。日本からオーストラリアを訪れる日本人学生数は、年間6万にも達しています。オーストラリアの都市は、世界の住みやすい都市として名を連ねています。科学分野ではイノベーションを生み出しており、オーストラリアは、過去100年間に15人のノーベル賞受賞者を輩出しています。例えば、ピロリ菌を発見したのはオーストラリア人ですし、ガムの原料となるリカルデントはメルボルン大学の研究成果です。

次に、大使は「人と人との交流のこれからを見通して」として「草の根の交流」から「長年に渡る交流の歴史とネットワーク、組織運営のノウハウなどの財産」を熱く語られ、「この豊かな財産をいかに新しい世代に引き継ぎ、交流の輪を大きくしていくか」と言う課題へと、踏み込まれました。

オーストラリア大使館は「人的交流の活性化を実現する新しいアイデアを出し合う機会」を設けられ、大使館内でのプレーストリーミングをされました。それをベースに、アイデアとして、下記の項目が具体的に提案されました。

- ① JETメンバーとのタイアップ：オーストラリア大使館では、彼らが日本に到着した後、レセプションを開催していますので、コンタクトリストの提供は可能との説明です。
- ② JETメンバーを招聘してAfternoon Teaなどのちょっとした会の開催提案。
- ③ ICTツール：Virtual Tourオーストラリアでホームステイしよう！と名づけられました教材で、6人のオーストラリア人のキャラクターを介して、ホームステイの仮想体験が出来るのです。このデジタル教材は、中学校社会科地理の「世界の諸地域」の学習指導要領に合わせて使用出来る様になっているそうです。
- ④ 訪日客の増加：2011年の1年間、オーストラリアから日本への観光客数は、15万人未満でしたが、2015年には35万6千人へと大きな増加です。これは、従来の東京や北海道が目的地では無く、日本全国に魅力を探して訪れている事を示唆していますので我々との接点が見つけれられるかも知れません。
- ⑤ Web site 及びSocial Mediaの活用：今やIT時代ですから組織運営に当たり、ウェブサイト、ソーシャル・メディアの活用にも目を向ける必要もあるのではないのでしょうかとの提起です。

大使の締めくくりの言葉は、「日本とオーストラリアの友好関係は、そこに住むひとりひとりの強い絆にかかっております」でした。大使は懇親Partyの後、全てのテーブルを廻られ、全ての出席者との談笑及びテーブルごとの写真撮影に応じられる情熱的な姿勢に、感銘を受けましたのは私だけでは無いでしょう。これが「草の根交流」の原点に思えます。

<p>THE WESTIN OSAKA 代表取締役社長 森田 雅実 ウェスティンホテル大阪 〒531-0076 大阪市北区大淀中1丁目1番20号 TEL.06-6440-1111(代表) www.westin-osaka.co.jp</p>	 <p>帝国ホテル 大阪</p> <p>〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-50</p> <p>取締役 常務執行役員 幸田 雅弘 総支配人 Tel. 06-6881-1111(代表) Fax. 06-6881-4111 http://imperialhotel.co.jp</p>
--	---

②上田秀明 日・豪・ニュージーランド協会会長講演

駐オーストラリア連邦特命全権大使であられた上田秀明氏は「民主主義、市場経済、価値観を共有する豪州との関係は、日本にとって極めて重要」と外交官らしい語りから始まった。

最初の注目点は、「日豪相互補完関係」で有った。豪州は日本の真南の大陸で、世界の大国から遠く、国際紛争に巻き込まれない、資源が豊富、乾燥台地、人口は2300万人と説明をされると、成る程と理解する。貿易面では、日本から見た豪州は、第4位であるが、人口割りでは第1位である。貿易の内容的には、エネルギー供給国で豪州からは全体の24%を購入している。同時に、豪州は、資源の主要供給先で、鉄鉱石は60%、鉄鉱石の20%を購入している。食料に至っては、第3位の食料素材を、輸入している。例えば、牛肉、大麦、チーズ、小麦、などである。一方、豪州から見た日本は、第2の貿易相手国で、最大の貿易黒字国、第3位の直接投資国である。このような事から、日豪は「相互補完関係」にある事が理解できる。その他にも、豪州は親日国である事を、戦争花嫁達の地道な努力、商社員の役割、各地での豪日協会の活動などから、例示された。

次に、オーストラリアの成立の歴史を踏まえて、戦前の日豪関係を、ブルームの日本人墓地、ダーウィンでの真珠貝の採取、クィーンズランドでの砂糖黍の収穫への参加などを例示され、1896年にタウンズビルに最初の日本領事館、1897年にシドニーに日本領事館が設立された。1941年12月に太平洋戦争が勃発して、日本との戦いが熾烈を極めた。

1944年8月にはカウラ日本人捕虜脱走事件が発生した。このような経緯の中で、日本との関係が復活したのは、1957年に締結された「日豪通商協定」だろう。以降、1966年から41年間、日本が貿易相手国として第1位に君臨していた。豪州での日本語学習者は28万となり、人口当たりでは世界1位となっている。

最後に、「今後の日豪関係」として、下記に纏められる形で説明され、締めくくりとされました。

- ① EPA発効で、経済的相互補完関係は発展する。
- ② 安全保障協力関係は拡大中である。
- ③ 2018年はJANZの90周年であると同時に豪州は日本をフォーカスする。
- ④ 中学・高校・大学レベルの交流は拡大すべきである。
- ⑤ TV番組を日豪間で相互放映を拡大すべきである。
- ⑥ 観光・スポーツ、例えば、スキー、海洋スポーツ、の相互交流拡大は可能性が有る。
- ⑦ 各都市間の直行便、クルーズ船の運航拡大も可能性がある。
- ⑧ 日本各地の日豪協会、豪州各地の豪日協会の活躍に期待する。

JANZは公益社団法人：日・豪・ニュージーランド協会の事であり、2年後には、全国日豪協会連合会の会長協会になられます。元駐豪全権大使のスピーチは「40年の外交官生活の体験を基に国際間の実態を若い人たちに伝えたい」との情熱に溢れた内容でした。



追手門学院大学 オーストラリア・アジア研究所
The Center for Australian and Asian Studies, Otemon Gakuin University



OTEMON GAKUIN

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
2-1-15 Nishiai, Ibaraki, Osaka 567-8502, Japan
Tel: +81-72-641-9667 / Fax: +81-72-643-9476
E-mail: cas@office.otemon.ac.jp

ハンバーグレストラン
びんぐりドンキー

株式会社元廣 **MOTOHIO**

〒612-8473 京都市伏見区下鳥羽広長町162番地
TEL 075-611-2195(代) FAX 075-612-0976
URL www.motohiro.co.jp/



③富田勇一 大阪日豪協会会長講演

全国日豪協会連合会の会長に就任されました富田会長は「草の根レベル」についてスピーチをされました。大きなテーマは、「日豪交流の将来と日豪協会の役割」。親善と理解を深めるためには、今回、出席されました方々が、全国各地の日豪協会会長または代表者であることから出て来た発想です。まず大阪日豪協会の会員数の推移から見ますと、設立時は120名、1991年には184名、92年には290名、93年には322名、と急伸するも頭打ちになった。2004年には214名、2008年には180名、2010年には145名、2014年には167名、2015年には170名と回復し、2016年はもみ合い状態です。会長歴は2004年から、途中1年間休み、現在12年目ですが、会員の減少傾向は、大阪地区では、どこの協会でも見られます。昔は海外留学をしたいとか、取引をしたいとか、単純に友達を作りたいとか言った時、入り口が限られていたので、親善協会はそのゲートウェイとして重宝がられました。今は入り口が何時でも手の届くところにあります。例えば、留学では政府が率先して留学の勧誘をして便宜を提供しています。従って「日豪協会の様な親睦団体は、そういった、実利を提供する手段とは別に意味ある団体で無ければ、存在の意味が無くなる」と明言され、大阪日豪協会は、「明るく、楽しく、フレンドリーな日豪協会」がモットーとして活動をしている。日豪親善を出汁にして、とにかく大勢集まって、面白い事をやろうとの機運でした。パーティ、ピクニック、バーベキューなどに力を入れております。二番目の特徴は、役員数が多いのです。多分、会員10名に役員が一人です。名前だけの役員はほとんどなくて、月一度の役員会は90%以上の出席率です。それぞれが部会を担当して自主的に企画を立て実行しています。言うなれば、協会の仕事が義務ではなく、自己実現の手段になっています。18名の役員の出自は、中小企業のオーナー、豪州駐在経験豊富な元商社マン、大学教授、学校経営者、音楽家、主婦など多士済々で、役員会終了後の二次会が楽しみです。「なぜこれが日豪親善に関係するのか。」への答えは「普段では繋がりが有り得ない世界の人たちを結ぶものは、オーストラリアが好きと言う共通項なのです。」しかしながら、恋愛は片思いでは成就しません。下手をするとストーカーになってしまいます。その点、オーストラリアは立派です。キャサリン・テラーさんは我々の大きなイベントに必ず出席され、ほとんど全ての出席者と話をし、思いを受け止めて下さいました。ミラー大使も頻繁に関西を訪問され、それぞれの協会と親しくして頂きました。

課題は色々和ります。その一つは、若い人の補充がなかなか進まない事です。その答えは「会が自身で新しいニーズに適應して行ける努力が必要」と締めくくられました。(広報部会：坂本章)

全国日豪協会連合会 大阪大会 特集3 一懇親パーティー

全国日豪協会連合会、会懇親パーティーが平成28年11月26日(土)19:00から帝国ホテル大阪3F「孔雀東の間」にて約150名を超える参加者の下で盛大に開催されました。

豪日協会の豪州人、日豪協会の日本各地の方々、大阪日豪協会のクリスマスパーティーも兼ねるなど、通常とは異なる形式で、沢山のゲストを交えてのパーティーでした。当協会の主催者である富田勇一会長の挨拶で始まり、駐日オーストラリア大使ブルース・ミラー様はじめ、その他、沢山の皆様に来賓のご挨拶を頂戴し、共催3協会(関西日豪協会・神戸日豪協会・南大阪日本オーストラリア協会)の代表の方に乾杯のご発声をして頂き、和やかな雰囲気のもとで開催いたしました。

祖田修氏・Yu-Ma氏によるデュオ演奏は、富田会長のリクエストでオーストラリアの曲「ワルチング・マチルダ」・ビートルズの曲を含んだジャズ演奏をして頂き、音楽をたっぷり楽しみました。マジシャン・オフィスドゥーこと佐々田つよし氏のマジックは各テーブルを回ってお客さんを喜ばせてくれました。今回の着席方式のパーティーは初めての試みで、食事も十分に楽しみました。

恒例の大抽選会『とるぞう』では、ウェスティンホテル大阪・帝国ホテル大阪のペア宿泊券・ヘアディナー券などに加え、沢山の法人会員企業及び個人会員からの寄付として、沢山の豪華景品が準備できましたので、多数の方々に、商品が当たると、大変、嬉しく思っております。

今回のイベントを最後にオーストラリアに帰任されますブルース・ミラー大使が、各テーブルを廻れ、参加者と一緒に写真撮影をして頂き、多くの方々と談笑して頂きましたので、パーティーは、フレンドリーな中にも気品溢れる内容となりました。大使と総領事に対して、長きにわたり日本で活躍された功績に対する感謝と送別の気持ちを込めて、参加者を代表して大阪日豪協会役員から花束贈呈を行いました。

最後の締めの挨拶は、池田副会長がされ、参加者全員が大阪でのパーティーを楽しまれ、各日豪協会の将来への夢を持たれたと思います。最後になりましたが、今回多くの協賛を提供して頂きました皆様に厚く御礼を申し上げます。(PR部会)



全国日豪協会連合会 大阪大会
特集4 - オプショナルツアー -

《1日コース》

仁徳天皇陵と利休井戸他堺市内見物ツアーにて前日の総会、記念パーティーのあと南大阪オーストラリア協会様の主催にて南大阪の中心で歴史のある国際都市をめざしている堺市の名勝を散策いたしました。

参加者は当日 帝国ホテル朝10時、豪華観光バスにて湾岸高速堺線で雨の中を堺をめざしました。まず最初の訪問地は堺の偉人と言われた茶人利休と作家と謝野晶子記念館（さかい利晶の社）にて大まかな堺の歴史をみました。この記念館は2年前できた大変立派なものでした。

2番目は堺のひとは誰もが食べたことがある有名そば（ちく満）にてそばをいただきました。江戸時代をおもわせる風流な食べ方で酒をのみながら出来あがりまつようです。のみながら待つのでまた談笑に盛り上がりました。一人当たりの1斤半の量をたべ、まず腹ごしらえ完了です。3番目は今回メインの仁徳天皇陵を拝観です、堺では各名所にはボランティアガイドさんがおり熱心な説明に感心いたしました。いま堺はユネスコ世界遺産の登録めざしており仁徳天皇陵の全体説明が難しくいつなるかこれまた興味深いです。そのあと堺市博物館にて映像による天皇陵の歴史、規模など鑑賞、あと堺市役所の屋上展望台に上がりましたが雨天のため市内はぼんやりで残念でした。4番目は堺の誇る匠の技を見学に刃物ミュージアムに行きました。ここは包丁がメインでなんでも使える（魚、野菜、布など）一度おとすれても損はないかも、注文受けているそうですが値段は相当しますとのこと。その後、小島屋さんにけしもちをお土産に買いに行きました。けしもちも堺の名物でここしか売っていないそうです。

雨のなかでのツアーでしたが総勢25名参加大変和やかに北は北海道、東京名古屋、シドニー全国各地から参加され次回また再会すること祈念し帰阪いたしました。最後に主催された南大阪オーストラリア協会の皆様、ガイド、バス会社の皆様ありがとうございました。（国際親善部会：青井利道）



《 半日コース 》

2016年11月27日(日)、全国日豪協会連合会大阪大会の第2日目、オプションツアーが行われました。そのうちのオプションツアーC「大阪ダックツアー」には、前日の大会に参加された飛騨高山日豪協会、岡崎日豪協会、そして大阪日豪協会の会員・会友合わせて16名が参加しました。

京阪天満橋駅近くの川の駅「はちけんや」から午前11時15分にスタートした本ツアーは、水陸両用バスを使用しており、まずは陸上ルートで大阪市内を観光した後、市内を流れる大川に着水し、ゆったりと大川を巡った後に再上陸して「はちけんや」に戻ってくる陸路60分、水路30分の計90分の市内観光ツアーとなっています。

この日はあいにくの雨天にもかかわらず、当オプションツアーの参加者以外にも多くの一般客が乗車され、全40席が満席に近い状況で、このツアーの人気の高さがうかがわれました。

この水陸両用バスは、屋根はありますが窓がなく、当然のことながら雨が直接降り込んでくるため、ほとんどの参加者が乗り場で販売されている雨がっぱを着た状態での参加となりました。その雨に寒さが加わり、悪条件の中ではありましたが、雨に濡れた大阪城もとても印象に残りましたし、陸路から水上に入る瞬間の何とも言えない緊張感がほかでは味わえない貴重な体験となりました。

又、この大阪ダックツアーには、ガイドさんが乗車しており、通過する観光地を大変楽しく、笑いを存分に取り入れながらガイドしていただき、腹を抱えて笑う場面もありました。大阪以外から参加された皆さんも大阪観光に加えて大阪の笑い、そして大阪の文化を存分に味わっていただくことができ、雨天を忘れて楽しいひとときを過ごすことができました。(文化交流部会：安井佳子)



全国日豪協会連合会 大阪大会 特集5 - 参加者様の感想 -

大阪大会に参加された16協会の中から紙面スペースに限りがある為、4協会から感想を聞きました。加盟協会の中で一番北の北海道日豪協会、一番南の熊本日豪協会と非加盟協会の新潟オーストラリア協会、広島日豪協会の4協会です。

「大阪で刺激を受けて」

全国日豪協会連合会大阪大会では、大阪日豪協会をはじめ関西地区の日豪協会の皆様に大変お世話になり深謝しています。私は、1996年11月20年前の日豪奈良大会、2001年8月の豪日カウラ大会以来久々の全国大会でした。今回は、坪谷久美子副会長、小野寺智彦事務局長と3人で参加し、他協会の”オーストラリア大好きさん”の活動報告を拝聴し、3人それぞれに刺激を受けて北海道に帰ってきました。東京大会では皆さまに、”本当ですか！”と驚かれるような報告が出来る様に今後頑張ります。

また、総会に始まり、記念シンポジウムや懇親パーティの円滑な運営のみならず、受付時に写した写真が抽選会で活躍するなど、全てが一体となった運営に感服いたしました。

記念シンポジウムでは、日豪2国の緊密な貿易関係、第二次世界大戦での日豪の戦いなど経済や歴史に関するレベルの高い、自分の日常とは違う世界に触れる事ができ、大変勉強になり、そして、2018年の東京大会が今から楽しみにになりました。

個人的には、抽選会で、ディナーヘアお食事券が当たり、カウラ大会で同じ農家民宿に泊まった三重協会の方にお会いでき、極めて充実した1日でした。翌日のオプションツアーを含め、お気遣いお心配り頂いた大阪日豪協会の皆様、本当にありがとうございました。(北海道日豪協会 副会長 田中利男)

このたびは全国日豪協会連合会大会に出席させて頂きましてありがとうございました。非加盟協会の立場にもかかわらず、お声をかけて頂きましたこと重ねて厚く御礼申し上げます。そして大阪日豪協会様はじめ関西日豪協会様、神戸日豪協会様、南大阪日本オーストラリア協会様のきめ細かな、暖かいおもてなしに感激いたしました。ご準備にはたくさんのお時間とご苦労も多かった事と存じます。本当にありがとうございました。

〈各参加協会様のご報告〉からは設立して4年目の弊会にとっては今後の活動の方向性について、たくさんの方のアドバイスを頂いたような気がいたしました。また〈記念シンポジウム〉ではミラー駐日大使をはじめとする普段はお会いできないような素晴らしい方々から日豪交流の長い歴史やSNSを駆使した今後の活動の可能性を伺い、更に私どもも日豪交流にがんばらなくては！と巨大なパワーを頂きました。そして〈懇親パーティー〉ではおしゃれなジャズの演奏とサプライズたっぷりのマジック・・・そして申し訳ないような大当たりの抽選会（自転車を頂戴しました！）と大変、大変楽しいひと時でした・・・。たくさんの方々とワインを酌み交わし、時間を忘れてご交流ができたことも何よりでした。「オーストラリアはダシだ！集まってたのしくやろう！」というシンポジウムでのお言葉が心に残っております。先輩方と同様に人と人との交流の素晴らしさ、そしてオーストラリアの素晴らしさを核に地道ながら明るく楽しくフレンドリーな活動を続けて行きたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（新潟オーストラリア協会）

大会では、各協会皆さまの報告を聞き、共通の悩みがあると大きく頷き、今後の活動のヒントになりそうな報告には感嘆したりと、とても有意義な時間を過ごせました。

私どもは現在、連合会へ非加盟ですが、思い返せば、ミラー大使との懇談会を企画する際には大阪日豪協会の森事務局長様に、12月の親善ツアーについては上越日豪協会の近藤会長様・・・など、各地の協会にアドバイスをいただきながら進めていることに気付かされました。今後も、困った時には皆さんに相談したいし、逆に、相談を受ければ出来る限りのご支援を惜しまないつもりです。そのためにも、事務局担当としては、ぜひ連合会へ参加させていただきたいと考えています。（広島日豪協会 事務局 笠間）

当日、3時起床、4時に駅近くのANAホテルまで車で行き、徒歩でJR熊本駅へ向かう。大阪会議の理事会に間に合うために、熊本6時発新幹線に乗車。東京は年数回出かけているので慣れているが、大阪は50年ぶり。大阪帝国ホテルへの旅程を事前に調べて出かけた。新大阪から梅田へ、環状線で桜の宮駅下車、駅員さんに帝国ホテルへどう行ったらよいか尋ねたすら、指さして、「あのビルです」と教えてくれた。朝の大阪の空気を満喫しながら、会場へ。会場へ着くと、一番乗りのためか大阪の富田会長が理事会会場から、挨拶を頂き、懇切丁寧に受け付けご案内頂いた。富田会長とは、二月、大使公邸で外務大臣を囲んでの日豪友好条約40周年レセプションで初めてお会いした。理事会に出席。各協会で活動されている会長集いの理事会。いろいろとご意見や異論も混在した理事会、総会であったが、日豪交流、日豪親善に常日頃からご理解なされているメンバーの組織なので、懇親会も盛会で大変心に残る大阪大会の一日となった。また、新しい人々との出会いの場でもあった。大会運営の準備を担当された皆様のご苦労もあったことと思いつつ本番を楽しませて頂きました。

また、今回、会員総意による、満場一致で激甚災害の熊本への過分なるお見舞い金を頂きましたことを心から御礼申し上げます。12月1日、ミラー大使と一週間で二度も福岡で総領事送別会で再会。親しく語り得る機会ともなりました。協会活動を通していろいろな人々との出会いこそ、最高の人生の友と言えます。

（熊本日豪協会 理事（専務理事） 富田 巖）

オーストラリアから参加された元日豪協会会長のリー・マクリントックさんからの感想です。

When I was the President of the National Federation of Australia-Japan Societies, one of my top objectives was to forge closer links between our Federation and its Japanese counterpart. Progress was slow at first, but I think your conference in Osaka last month clearly showed the importance of our connection. I have made many good friends in Japan, thanks to my links through the Japanese Federation. The fact that so many of my Australian colleagues attended the Osaka conference was very pleasing. It shows that our Federation-to-Federation link is truly bearing fruit.

I want to congratulate JASO and all the Japan-Australia Societies which worked so hard to make the meeting a success. I felt that the format was ideal: just the right amount of formality, but with the emphasis on allowing us all to mix around, making new friends and strengthening old ties.

Your welcome, not just to me but to my wife as well, will not be forgotten. I look forward to our next meeting.
(Leigh McClintock Australia-Japan Society NSW)

ー・イベントレポート・ー

豪日協会連合会隔年総会に出席

2016年9月2日（金）－3日（土）豪州ケアンズにおいて豪日協会連合会隔年総会が開催され、当協会から小西諄次副会長・青井利道理事が参加した。

初日、会場プルマン・ケアンズ・インターナショナルで、日豪通商関係分野についての討議、ロス・ハンフリーズ会長の歓迎スピーチに始まり豪日交流基金マレー・マックリーン理事長挨拶と豪日協力が齎す機会についてレポートがあり、その後「新たな機会に満ちた世界」と題しての講演、パネル・ディスカッションがあった。夕刻ケアンズ市オーディトリウムに会場を移してカクテル・パーティがあった。

2日目は会場ケアンズ市オーディトリウムで、ケアンズ市長、在プリズベン保坂英博総領事からスピーチの後、ロス・ハンフリーズ会長司会で保坂総領事、自治体国際化協会上坊シドニー事務所長、神戸日豪協会太田会長によるパネル・ディスカッション、全豪豪日各協会から活動報告があった。打ち上げはパシフィック・ホテル・ケアンズにおいてガラ・ディナーとなった。

今回は念願のケアンズでの開催が実現することとなった。今総会を通じてロス・ハンフリーズ会長から再三にわたって大阪大会への参加呼びかけがあったことは特筆される。今総会終了後は新体制が発足することとなり、今後の活動活発化が期待される。

（小西諄次）



ー・イベントレポート・ー

第87回ハローマイト懇話会

9月20日に参加者22名を得て、「大阪梅田サテライト」にて開催されました。講師は、食生活の権威である的場輝佳奈良女子大学名誉教授が「和食とダシのうまい話」を、ユーモア溢れる内容は楽しく、奥深いものでした。

和食は、如何にダシが大切であるか、そのダシは他の料理にも使う事が出来ると語られ、今は、どこにもあるパックのインスタントでは出せない味となっています。今般世界各国で、和食が体にも良いと見直されている様です。従って、シェフが1年かけて日本料理の勉強に来ている姿を、TV・新聞で見ました。今回の講演を聞き、和食が今まで以上に好きになりました。「里山ダイニング野の宴」で的場先生も一緒に和気あいあいと楽しい会食を食べた「和食とダシのうまい話」ハローマイトでした。

（PR部会：三家茂里枝）



— イベントレポート —
 第34回大阪日豪協会親睦ゴルフコンペ

紅葉がかすかに見頃の10月25日（火）兵庫県三木市の三木よかわカントリークラブにて、大阪日豪協会主催のゴルフコンペが開催されました。

前日の雨予報にもかかわらず、全員何とか雨が降り始める前に終了する事が出来ました。今回は数年ぶりに当協会会長の富田勇一氏がプレーに復帰し、和気あいあいの楽しい一日となりました。参加者は15名4組で、ダブルペリア方式でのコンペとなりました。優勝は中村秀一氏、準優勝は丸谷恵一氏、三位は児玉徹氏が各々獲得されました。来年のゴルフコンペは春か秋に予定していますので、初参加の方も奮ってご参加下さい。

（PR部会幹事 池田八郎）



— イベントレポート —
 第88回ハローマイト懇話会

あべのハルカスの辺りは既にクリスマスムードが漂っています。11月18日午後6時半から、23階の阪南大学あべのハルカスキャンパスで、インターンシップの体験談を聞きました。女子学生7人、協会からのオーディアンスは11人です。例によってパワーポイントを駆使して一人目、日本語教師アシスタントをした体験からスタートしました。去年までと違って今年はニューサウスウェールズのリズモアという街を拠点にインターンシップを体験したとの事。先ず英会話を学び、その後それぞれのインターンシップ先に向かうのは同じで、それぞれが違う家庭でホームステイ、異なった体験をします。

日本語教師のアシスタントでは、「山に行く」「山へ行く」といった助詞の違いの「説明を求められて困った、もっと日本語を勉強したいと思った」、と逆に日本語の大切さを思い知ったようです。同じく日本語教師のアシスタントをした学生は、“日本文化・折り紙”で大いに人気を博したそうです。授業以外のところでも「折り紙を教えて！」と生徒たちから引っ張りだこで持参した折り紙は「アツという間に無くなった」と嬉しそうでした。なお子供たちの一番人気の折り紙は？と質問したところ“ピカチュウ”だったとのこと、所変わっても、ですね。プライダル業務を希望した学生は、ウェディングドレスのデザイナー、フラワーデザイナーなどのアシスタントを体験、特に結婚式の豪華な、高価な花の装飾に驚いたと、パワーポイントの写真を示しながら改めて感慨を語ってくれました。また現地の人々との触れ合いの中で“自ら行動する大切さを学んだ、積極的な生き方をしたい”と抱負を語りました。ホテル業務を体験したのは2人、それぞれに違った感想を話しました。海外で働く事への憧れを学生の時に体験できるとは、と参加した学生は、ホテル直営のレストランでインターンシップ。最初はサービスの仕方の違いが解らず「泣きました」と本当に“泣いた”そうです。でも彼の地ではスタッフが、客との会話を楽しんだり、働く事を楽しんだりする姿を見て日本との違いを発見したようで、“海外で働く事への憧れ”は益々強くなったと次の目標がどうやら見つかったようです。もう一人は、レストランのメニューに発見があったと言います。誰が見ても一目でどんな料理か解る、日本でも取り入れたら？と話していました。多民族国家の智慧を計らずも見つけたのでしょうか。またチップという“サービスへの対価”も新鮮な体験だったようです。

（評議員：出野 徹之）



最近のオーストラリア事情 第5回

大阪日豪協会会員でシドニー在住の永田朝子さんから身近なオーストラリアの話題をシリーズ形式でレポートして頂く企画です。(広報部会)

シドニー在住 永田朝子

<http://www.asakoinsydney.com.au>

■シドニーの「医療システム事情」体験記

今年、5月からの一時帰国でイギリス旅行等終え、極寒のSydneyに戻ってきた8月に「Sydney Breast Clinic」にて乳がん検査の結果、「Lobular cancer」(小葉がん)と診断されました。9月14日に「North Shore Private Hospital」にて約4時間の「右乳房全摘手術」を終え18日には無事退院出来ました。手術前に担当のイギリス人女性DRから最近手術した「30代の日本人女性」を紹介して戴きました。手術前に彼女が我が家にきてくれ明るく「体験談」を話され、術後2週間で元気にお仕事をされている様子を伺うことが出来とても安心し、お陰様で手術に対する不安はまったくありませんでした。又、DRから紹介されたMATER HOSPITALの「日本人の医療通訳」の方にも、アドバイスを頂きとても助かりました。今後、「乳がん」の手術をされる方がいらしたら、私がして頂いたように「体験談」をお話し、患者に元気なエネルギーを与え安心して手術が受けられるようになればと思った次第です。

今回の「乳がん手術と入院」の体験を機会に、昨年日本人が立ち上げた「JASTC」(在豪邦人コミュニティサポート)の協力の元「MY AGED CARE」(ホーム・ケア・プラン)の登録を致しました。オーストラリアの国は「移住してきた」と言うだけで、多くの移民の年配の方々は、長年税金を払っていたわけでもないのに、お世話をしてくれるわけですから、本当に良心的なシステムです。

又、今年10月には「Japan Total Care Service」(日本人スタッフによる高齢者介護)が設立され、シドニーに於いて日本人にとっては安心して暮らせるシステムが出来上がってきました。

昨今、「本帰国」される日本人夫婦(主に70歳以上)が絶えませんが、もっと詳しくオーストラリアの事情を知り、日本人に寄る日本語でのサポートや日常的な介護を提供されれば事情は変わるかもしれませんね。



新入会員紹介

新入会員の方をご紹介します。

松本 由見子(まつもと ゆみこ)様 藤井寺市在住

新企画

「リレー随筆」へのご応募

2017年度から新しい企画として「リレー随筆」を広報部会として取り上げて行きます。目的は会員間の相互交流及び草の根交流をHELLO MATE紙面をベースに進めて行ければ相互理解に辿り着き、其の事が協会の力になるのではないのでしょうか、との思いです。

170名弱の会員皆様の協会への想い、オーストラリアについての随筆、自己紹介・趣味などを400字に纏めての応募をお待ちしております。



— 新会員募集中 —

大阪日豪協会へのご入会などに関する問い合わせは下記にご連絡下さい。

事務局：〒541-0048

大阪市中央区瓦町3-3-10

ニッケビル11F

電話・ファックス：06-6205-6618

E-mail: nichigo@herb.ocn.ne.jp

ホームページ: <http://osakanichigo.com/>

[大阪日豪協会への入会等に関する説明]

主な入会要項

① 入会金は不要

② 会費は会計年度毎に次の通り

法人会員 1口 8,000円(但し2口以上)

家族会員 6,000円(1家族3名まで、
1名追加500円)

個人会員 4,000円

学生会員 2,000円

会費は初年度分を入会と同時に納入し、次年度分以降については新年度の初めに納入する。

但し、年度の途中に入会した者の初年度分の会費は月割りで計算した額となります。